



セントラルクリスチャンカレッジ オブカンザス(アメリカ)との 覚書を締結しました

本学とセントラルクリスチャンカレッジオブカンザスは、双方の学生の利益と教育プログラムを強化し、文化交流を促進することを目的とし、学部学生および教職員の相互派遣を計画、促進、実施するため、また、両大学の教育・研究などの分野における学術的文化的交流の発展を目指し、覚書を締結しました。

セントラルクリスチャンカレッジオブカンザスはアメリカ中西部・カンザス州のマクファーソンに位置し、1884年に創立された私立大学です。評価機関Higher Learning Commissionの認定を受けており、学生数約250人と小規模カレッジではありますが、経営、アート、教育、サイエンスなど200以上のコースがあります。

今後、学生交流と異文化体験を主とした相互派遣方式のプログラムを実施していく予定です。本学の派遣プログラムでは正規科目の英語、その他科目の履修、学生寮滞在など学生同士の交流を極力多く含んだプログラム内容で、単位取得を目指すものとなります。



▲ セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス (アメリカ)

2020年12月18日(金) 本学多目的ホールにて 「SDGsカフェ」を開催し 学生15名が参加しました

「SDGsカフェ」とは、SDGsに関する取組の一環として本学の学生とSDGsに関連す

るテーマについて共に考え、SDGsへの一層の理解と教育を行うことを目的に企画したイベントです。今回のテーマは「お米から地球温暖化を考える」です。

本学学生らが中心となり、鳥取市生山で稲作に取り組んでいる「稲葉プロジェクト」の代表である田子川さん(経営学部3年)から稲作の一連の流れ(苗づくり、収穫、次の年に向けた水源の掃除まで)や、今年新たに挑戦した無農薬米の栽培や稲作を通じた地域交流についての説明がありました。

また、「TUES地球環境を考える会」から地球温暖化が進む現在の気候変動の様子や地球温暖化における米の品質への影響について説明がありました。

その後、経営学部山口講師から世界の米の品種や日本独自で品種改良された米についての説明がありました。参加者は説明を聞きながら、稲葉プロジェクトで栽培した3種類の米(ひとめぼれ、新潟産コシヒカリ、鹿児島産ヒノヒカリ)を試食し、味や粘り、甘みなどの違いを比べました。またお米と共に、スイカ漬けや砂丘ラッキョウといった鳥取県特産の漬物も味わいました。



▲ SDGsカフェの様子

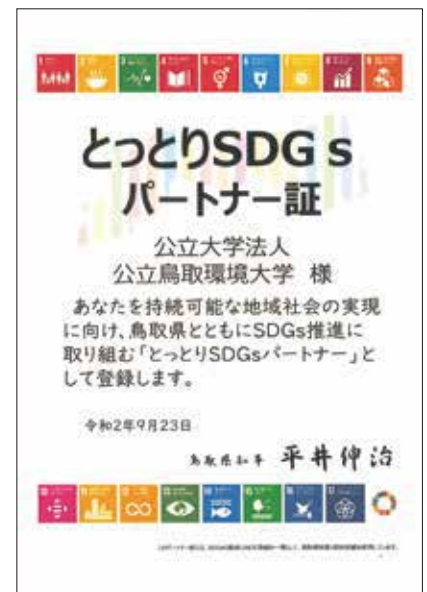


▲ コメの品質に影響する地球温暖化について解説

参加した学生からは「ご飯の食べ比べによって品種の違いが分かり、興味深かった。」「世界の米とSDGsとの関連性について興味が湧いた。」という意見がありました。

「とっとりSDGsパートナー証」を 受け取りました

この度、本学は持続可能な地域社会の実現に向け、鳥取県とともにSDGs推進に取り組む「とっとりSDGsパートナー」に登録し、鳥取県発行のパートナー証を受け取りました。



▲ とっとりSDGsパートナー証

本学学生が鳥取警察署より 感謝状を贈呈されました

経営学部3年の小坪稔輝さんが「目撃状況を正確に通報する等犯人の検挙に功績があった」として、鳥取警察署長より感謝状を贈呈されました。

以下、小坪さんのコメント

「当たり前のことをしただけですが、感謝状を贈られて光栄に思います。」



▲ 感謝状を手にする小坪さん